

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275400196		
法人名	社会福祉法人 島田福祉の杜		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	静岡県島田市中河町326-1		
自己評価作成日	平成 29年8月20日	評価結果市町村受理日	平成 29年 12 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 29年 11 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は自立支援を目標に掲げ、利用者に生きがいややりがいを感じていただけるよう心掛けています。特別な事をするのではなく、日常生活の中で、職員が手助けし過ぎることがないように、利用者が達成感・爽快感を持てるよう援助をしています。周囲の環境も望まれており散歩を増やしてほしい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設の特養ホームと委員会活動等を一体的に取り組んでおり、災害対策に係る訓練や備蓄、また身体拘束廃止への取り組み等が積極的に推進されている。また、併設特養ホームのショートステイやデイサービス利用者が入居してくる場合が多い事から、馴染みの友人も近くにおり面会等の関係が持ちやすい望まれた環境にある。一方で、グループホーム独自性のある地域との関係性が希薄であり特養ホームユニットとの差異があまり感じられない。例えば在宅高齢者の部屋に訪問すると様々な生活雑貨が置かれ雑然としているのが普通である。転倒予防等で整理整頓も確かに求められるが、その人らしさが見える居室や共有スペースであればさらに魅力が増すように思える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あすか全体の理念はあります。毎週月曜日に朝礼に出席した職員で唱和しています。グループホームでは、理念に基づいた目標を立て、意識を高めています。	「共に感じ生きがいをもって共に生きる」という法人の理念を基にしながら、介護理念やグループホーム独自の年度目標を設定している。日々の実践につなげられるよう、文章を「見える化」し会議室等への掲示、また月曜日の朝礼で唱和をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あすか祭りなどの行事に地域の方々を招いています。防災訓練は、地域の方々のご協力を得ながら行っています。	地域とのつきあいは、併設する特養ホームと一体の形で行われている。地域の自主防災会の協力を得て、年1回避難誘導等の訓練を実施している。また、近隣の島田高校や島田商業の学生たちが年5回程ボランティアに訪れ、利用者との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌「あすかの風」を発行しています。職員の中にオレンジサポーターがおり、活躍しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごと年5回開催しています。島田市からも必ず出席していただき、家族の要望や疑問に思っている事を伺っています。家族の参加が少なく、施設側からの一方的な報告だけになっています。	運営推進会議は平日ではなく、隔月の第3土曜日に開催し家族の参加に配慮している。家族に加え島田市職員と民生委員が必ず参加し生活の様子や職員の人事等も報告している。また福祉用具のミニ学習会等も会議の中で企画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席していただいておりますが、日頃からの強い協力体制の必要性を感じています。	運営推進会議を通じて、生活の様子に加え防災訓練等の取り組み状況やそこでの課題も報告している。市と連携することで、他のグループホームの情報を得たりして助言をもらっており、活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年まで玄関を施錠していましたが、現在は日中開放しています。施設内の委員会で身体拘束について毎月話し合っており、職員の意識も高いです。やむを得ず身体拘束を行う時は身体拘束委員会・ユニット会議の中で身体拘束解除を念頭に話し合います。	玄関にセンサーを設置することで、午前7時30分から午後7時まで玄関を開放するように改善された。虐待防止・身体拘束廃止委員会を昨年立ち上げ特養ホームと共同して『ひまわりシート』の取り組み等改革を推進している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体の研修等で学ぶ機会を設けています。利用者の状態観察は常に行っています。ひまわりシートと言う、職員間でのケアを見直す方策を取っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員や生活相談員が中心となってご本人や家族の意向を重視し、わかりやすく丁寧な説明をするように、心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご家族から意見や要望を伺うようにしています。運営推進会議では、ご家族が話しやすい雰囲気を作るように、心がけています。	年6回の運営推進会議や年4回の家族会で運営に関する家族の意見を聞いている。会議に出席できない家族には、面会時に要望を聞くようにしている。『ふれあい新聞』を月1回家族へ発行し行事や生活の様子を情報提供することで意見を出しやすくしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の常務についての話し合いが多く、運営についての意見があれば、ユニット会議や年2回の人事考課表へ意見をしています。	月1回職員会議が開催されている。施設長ほか勤務者以外の職員は全員が参加して行なわれている。現場レベルの課題については二種類の、『連絡ノート』&『カンファレンスノート』を活用している。スタッフ各自が意見を自由に書き込みそれを管理者が集約して方針を決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を行う事が、自分を振り返る機会となっています。あすか全体として、福利厚生に力を入れており、長く勤められる環境を作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月第3水曜日に様々なテーマで施設内研修を行っています。外部研修への参加を奨励しており、施設内研修で報告しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設として、様々な外部研修、ケアフェスタへの参加で、他事業所の情報を得るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心出来る環境、関係作りが出来るよう心がけています。入居初期は特に声を多くかけ、本人が安心して過ごせるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後1ヶ月面談を行い、ご家族が不安に思っている事などを伺っています。こちらから連絡を取ったり、面会時に話を伺い、不安がないようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活相談員や介護支援専門員が中心となって本人や家族の意向や要望を伺っています。新しいサービスの導入・変更時は、ご家族に相談しケアの内容を説明した上で決定しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、常に不安を抱えている事を理解し、常に利用者の思いに共感しながら業務にあたるよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣替えの時期や差し入れ・病院受診などの外出時には家族の協力をいただけるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内の散歩を多くし、馴染みのあるショートステイ・デイサービスの利用者と顔を合わせる機会を設けています。家人には外出泊を願いますが、あまり行なえていません。	入居者の半数以上の方が併設特養ホームのショートステイやデイサービスの元利用者であることから、それらの馴染みの人と顔を合わせる機会を多く設けている。来訪した際は、ゆっくりと居室で過ごせるように職員が声かけし橋渡し役をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて職員が間に入って利用者同士の関わりが持てるよう、配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所された利用者の訪問を受け入れたりこちらからも訪問するようにしています。特養の職員への情報提供や、入所後の情報をもらえるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望、意向の把握に努め、ケアカンファレンスやユニット会議で検討を重ねています。ひもときシートのようなツールを利用し本人の思いを把握できるように努めています。	センター方式の『ひもときシート』を共通ツールとして活用している。会話の中で得た情報から本人の意向や希望を把握し、それをユニット会議で発表したり、『カンファレンスノート』に記載し職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、本人や家族から、入所前の様子を伺っています。入所後も本人や家族から今までの生活を聞き、取り入れるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や連絡ノートを活用して情報を共有し、心身の現状状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所一か月後に本人・家人・他職種を交えた面談を行っています。ユニット会議でケアカンファレンスを行い、看護師や職員からの意見も介護計画に反映できるようにしています。	併設特養ホームのショートステイやデイサービスの元利用者が入所してくる場合が多く、情報が得やすい状況にある。家族面談を経て作成された介護計画はユニット会議で多職種も交えて検討されている。その後、来訪時に家族へ介護計画を説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートを活用して情報を共有し、日々の変化などの把握に活かしていますが、記録への記入はまだ十分ではありません。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスとの連携があります。施設としてのサービスのみで、本人が暮らしの主体になっていないように感じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年6回の運営推進会議に、民生委員に出席していただき、地域の情報などを伝えていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する病院は本人、家族の希望を最優先しています。嘱託医による定期的な回診もあり、その際の情報などはその都度、家族に伝えています。	入所時に家族が医師を選択出来る対応をしているが、現時点の入居者は全て嘱託医を選択している。嘱託の医療機関より3週間に1回医師の訪問診察がされている。夜間等の緊急時、急変時についてはマニュアルに従って当番の看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH担当の看護師がおり、利用者の状態について相談や報告が行いやすいです。毎日の担当看護師が日に何回か来所します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や介護支援専門員、看護師が状況に応じて訪問し、情報収集に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にも重度化した場合の在り方について意向確認をしている。本人に寄り添い、様子を細目に家人にお伝えしています。ご本人・ご家族の意向に沿えるよう心掛けています。	契約書の中で重度化した場合の退所基準について明文化したうえでご家族の意向について確認をしている。終末期の対応については家族、看護師、相談員での会議を行い本人の希望にそった送り出し対応を行っている。この1年間では1ケースの看取りがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設全体の研修で定期的に勉強しています。マニュアルもあり、勤務年数は関係なく、誰でも対応出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の災害マニュアルが作成されています。地域の方々の協力を得て、防災訓練を年に1回行っています。	近隣自主防災会の協力を得ながら、特養ホームと一体的に防災訓練を実施している。加えて、川沿いに建つグループホームの環境から年1回水害対策訓練として建物の2Fへの避難誘導訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩である事を意識し、威圧的な言葉使いにならないよう注意しています。職員一同接遇について学んでいます。	介護部の重点目標である『笑顔と心あるサービスで安心・安全なケアを提供します』を実践している。トイレ誘導の声かけは、トイレと呼称せず1番(の部屋)に行きましょうと言った表現に変え、本人への配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず本人の意向を伺うように心がけると同時に本人が職員に思いを言いやすい雰囲気を作れるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに完全に合わせる事は難しい状況です。いきがい・やりがいシートを作成し何をしたいのか常に問いかけるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限りご本人が好きな服を選べるよう心がけていますが、季節に合った洋服を職員が選んでしまう事が多いです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を読み上げて期待を持っていただいています。季節に合った食事やおやつ作りを定期的に行い利用者の楽しんで頂いています。その写真を家人にお便りで伝えています。	ひとりひとりがゆっくり食事が出来る様、テーブルや座席の配置に配慮がされている。食後の食器洗い等は職員と一緒に入居者も行っている。みそ汁やデザートは配膳はタイミングを見て後から職員が運んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分摂取量を記録しています。摂取量に変化があった時にはPCのソフトで、すぐに摂取状況表を作ることが出来ます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり口腔状態が違うので、看護師と相談しながら個別の口腔ケアを毎食後に行っています。歯科医師より、毎月口腔ケアマネジメントのアドバイスが伝えられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に毎日記録しています。状況に応じて個々にタイムテーブル表を作成し、排泄のリズムなどの把握に努めています。自立への支援は出来ておらず、介助が増えているように感じます。	1週間の排泄時間をチェックすることで排尿パターンを把握しトイレ排泄に取り組んでいる。現在24時間オムツを使用している人は2名、夜間のみ使用している人は3名である。介護技術向上委員会やオムツ業者を招いての勉強会等も行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多くしたり、おやつ時に排便を促す食品(乳製品や野菜等)を提供するようにしています。散歩などの運動も取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に沿った支援は出来ていません。一人ひとりの希望に沿った入浴は困難な状況です。菫湯などの変わり湯や、入浴剤の香りを楽しんでいただいています。	ヒノキの浴槽が使われており温かみのある浴室です。決まっている入浴日の入浴時間に一人ずつ個別対応し、同性介護にも心がけている。重度化に伴い器械浴槽を利用する方等も多くなっている。	入浴は個人の好みが出すケア場面です。また入浴は安眠や不安を和らげる効果もあります。決まった曜日・時間の入浴だけではなく、ケアプランに盛り込み希望時や必要時に入浴出来る対応が望まれます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間臥床時間を設けたり、ソファでゆっくりとする時間を作っています。入眠前は、落ち着いた雰囲気を作るように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を常に確認し、変更や追加があった時などは看護師から薬についての情報を得て、状態の変化の把握に努めています。内服薬の変更があった場合、必要に応じてその後の様子を記録に残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を確認しながら、家事や趣味を行なえるよう心がけています。外への散歩やレクリエーションで気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は困難ですが、散歩が行なえるよう心がけています。定期的に外出を計画し、家族にも参加していただいています。	職員付添いの関係から急な外出への対応は難しい状況である。定期的な計画の中で外出して昼食をとったり、近隣の薬局へ買い物等に職員と一緒に出かけている。施設周辺の散歩環境は良好で入居者は週2~3回は散歩をしている。	外出頻度や行きたい時に外出出来る要望がご家族からもあります。職員だけでは対応に限界がありますので、他部門職員への協力や地域ボランティア活用等も視野に入れた体制作りが今後望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の金銭管理は困難な状態になっているので、日頃は職員が金庫にて管理しています。戸外へ外出した際には職員が付き添いながら、買い物の支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけられる利用者は少ないですが、希望時には施設の公衆電話を利用いただいています。公衆電話は本館にある為、気軽に掛けることは出来ない状況です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の整理整頓を心がけ危険のないよう注意しています。居心地の良さより、安全を考えてしまっています。	共有スペースは天井が高く、中庭に面した大きく取られた窓から十分な採光と中庭の紅葉の様子が見れる。気になる臭いもなく、ソファを多く置き入居者は好きな場所で過ごしている。	昼食時間にテレビをつけていましたが画面が背になる座席が複数あり、誤嚥予防効果等を考えると音楽の活用も検討できます。また自由に中庭へ出られることで生活環境が広がりその点の工夫が望まれます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて一人で過ごす時間も大切にしながら、利用者同士が関われるよう状況に応じて職員が間に入っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで愛用していた物や家族写真、作品などがあれば持ち込んでいただき、自由に配置していただいています。	使っていた小物や家族写真、デイサービス利用時の作品等を持ち込んでもらっている。身体の障がいに合わせて、自分の部屋として使いやすい工夫もされている。居室は整理整頓がされ清掃が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内や共用空間、動線上の整理整頓を心がけ危険のないよう注意しています。生活の場として相応しくない、トイレ等の張り紙をしています。		